



令和8年度 文京区立駕籠町小学校 学校経営方針

令和8年4月1日
校長 宮本 達也

kagomachi 2026 子どものための学校であること

校長としての取組み

- 0 日々、子どもとともに
- 1 日常的な危機管理意識の維持
 - 報告・連絡・相談・共有・確認を徹底する
 - × 「大丈夫だろう」「分かっているはず」「まあいいか」
- 2 教員である前に社会人
 - ・ 礼節ある態度・話し方 ・ 相手意識 ・ 服装
 - ・ マナー ・ 率先垂範 ・ 凡事徹底 ・ 笑顔
- 3 日々の授業の充実と指導力向上への努力への支援
 - 改善への努力を怠らない教師を育成する
 - × 「これしかない」「これでいいのだ」
 - ・ OJT、off-JT
 - ・ 学ばざる者に、教える資格なし
- 4 落ち着いた学校環境の整備
 - 教室及び校内環境の整備をすすめる
 - ・ 黒板 ・ 黒板下、床等 ・ 花壇
 - 静かな教室の雰囲気づくりをすすめる
 - ・ 喋りすぎず、声の小ささを意識
 - ・ 考える時間の十分な確保
- 5 公費及びコスト意識の高揚
 - ・ 子どもの側に立った積極的活用と管理
 - ・ 異学年と情報交換し可能な範囲で共有・共用
- 6 学校における業務の効率化
 - ～ 働き方改革への取組み～
 - 教育活動や業務の目的、優先順位を考える
 - ① やらなければならないこと → すぐやる
 - ② やったほうがいいこと → 計画的にやる
 - ③ やらなくてもいいこと → 即時検討・改善
 - ④ やらないほうがいいこと → やめる
 - 質を低下させず、スリム化する
 - メリットのあるICTの活用を進める

教育目標

自己を確立し、一人一人が輝き、心豊かに 未来を拓く駕籠町の子どもを育成する。

- ともに学ぼう より深く 高い知性を持ち 個性豊かな児童
- ともに伸びよう よりたくましく 明朗で 意志の強い 健康な児童
- ともに歩もう 力あわせて 社会性の身に付いた 実践力のある児童

確かな学力の向上

- 1 問題解決の過程を重視した授業
- 2 個の学びと集団の学びのバランス
- 3 確実な見取りの積み重ねと評価
- 4 教科横断的な視点



よりよい授業の基本

授業規律（ルールとマナー）
聞こえる声で応答（他者意識）
ノート指導（めあて・振り返り、下書き）
姿勢の保持
一度では身につかない。継続し徹底する。

体力向上への取組み

- 1 運動の日常化・運動したくなる環境づくり
- 2 「めあてをもち振り返りを生かす体育科」への授業改善 → 年1回の授業観察
- 3 食育、保健指導・保健学習の工夫
- 4 望ましい生活習慣の定着化

豊かな人間性の育成

- 1 命と心の教育の推進
- 2 いじめ「見落とし」「見過ごし」「見逃し」ゼロ
- 3 不登校の未然防止・早期対応
- 4 「ならぬことは、ならぬ」の徹底
- 5 あいさつの励行

かかわる力

- 1 自己理解と自己有用感
- 2 個々の困り感や願いへの適切な対応
- 3 「困った子」ではなく「困っている子」
- 4 「思考」を促す学級づくり

特色ある教育活動

- 1 日本の伝統文化に親しむ体験活動
- 2 地域を生かした教材の開発と授業実践
- 3 「自助・共助」の意識の醸成
- 4 危険予測回避能力を育む安全教育
- ※ 授業参観の実施

判断力の育成

- 1 生活場面の判断力
- 2 安全に関する判断力
- 3 学びの場面での判断力

新規

駕籠町小をこんな学校に

- 1 大人も子どもも学び続け、進化し続ける学校
- 2 落ち着いた学習・生活環境を保っている学校
- 3 振り返りから、改善を生み出せる学校
- 4 子どもに夢や期待をもたせる学校
- 5 教職員も子どもも生き生きと輝く学校

教師の指導力

- 1 「教える授業」から「引き出す授業」へ
 - ・ 子どもが主体的に学ぶことができる授業を構築し、教師は「ファシリテーター」であることを心がけましょう。
- 2 全ての時間での本時の「ねらい」の提示と「振り返り」の重視
 - ・ なぜこれを学び、45分で何を身に付けるのか、子どもに目標が分かるようにしましょう。
 - ・ 45分で何を学び、何が身に付いたのか、子どもに振り返らせ表現させるようにしましょう。
- 3 自力解決できる環境整備
 - ・ 児童が自力で課題に取り組めるよう環境（資料、掲示、仲間など）を整えましょう。
- 4 学習環境の有効活用
 - ・ 子どもの育ちと歩みを実感できる教室・廊下掲示の工夫をしましょう。
- 5 学習規律と生活規律の明示・授業規律の浸透
 - ・ 駕籠町スタンダードを徹底しましょう。
 - ・ 学級内のルールを明確に示し、子どもにそのルールを守らせましょう。
 - ・ 指導後の見守り、行動の変容の確認を確実にして、指導を最後までやり切りましょう。
 - ・ 学年内交換授業等の実施で、学年経営の意識をもって子どもに同じように指導しましょう。
- 6 どの子も同じ善悪基準
 - ・ ほめるときはしっかりとほめ、叱るときはしっかりと叱りましょう。
 - ・ 見て見ぬふりはやめましょう。いい結果を生みません。
 - ・ 一時的な感情で怒らず、一呼吸おいて叱るようにしましょう。
- 7 日常からの授業改善と校内研究
 - ・ 日常の授業での一工夫を積み重ねましょう。
 - ・ 児童の実態を踏まえた授業を追究しましょう。
 - ・ 一人一人が子どもの学びに責任をもちましょう。
 - ・ 学年内交換授業で、教材研究の深化と時間の効率化をしましょう。
- 8 OJT推進
 - ・ ICT活用法、教授法等ノウハウを蓄積し、教員間で共有し、互いに学び合ひましょう。
 - ・ 「学年を越えて学び合う教師集団」を意識しましょう。
 - ・ 校内のあらゆる場面に学びがあることを意識し、学年・教科・分掌の違いを越えて、互いに学び合ひましょう。

教職員の組織力

- 1 学校経営方針の具現化
 - ・ 自分なら何ができそうか、何をするのか、常に考え、具体的な職務行動で表しましょう。
- 2 組織としての斉一性
 - ・ 「やりましょう」といったことが、同じベクトル・同じレベルで「やれる」ようにしましょう。
 - ・ 学年・組織でよく相談して、教員によって対応に違いが出ないようにしましょう。
- 3 組織の一員としての意識と機動力の強化
 - ・ 「私は何者か」を常に意識してかわり、組織を活性化させましょう。
- 4 教育公務員としてのサービスの厳正《服務事故防止点検日（FBT）の定期的な実施》
 - ・ 絶対に服務事故を起こさないという覚悟をもって、日々取り組みましょう。失われた信頼は簡単には戻りません。
- 5 保護者・地域との良好な関係づくり
 - ・ 丁寧な対応を心がけましょう。迷ったらより丁寧な手段を選びましょう。